

淡江大學 97 學年度碩士班招生考試試題

161

161

系別：日本語文學系

科目：翻

譯

本試題共 1 頁，二大題

一日翻中

1 花の名前を知らない

そのことが

今朝はばかに嬉しい

花だってたぶん

自分に付けられている

名前を

知らないで咲いている (20% 『鈴の鳴る道』 星野富広)

2 当時のボクは、生意気だった。「やりたいこともないくせに、大学へ行くヤツなんて」と世間に流されて大学へ行く風潮を批判などしていた。だが、自分がその立場に立つことになる。弁護士になりたいという思いが消えた時、それに代わるような選択肢はなかった。「やりたいこと」がなくなった時、大学は遠い存在となったのだ。

なんとなく、願書は出してしまった。だか、そんな気持ちのまま勉強などできるはずもない。周囲からは、大学は「一応」行っておいた方がいいと勧められたが、その「一応」がイヤだった。 (20% 『五体不満足』 乙武洋匡)

3 われわれが言葉の正しさ、よしあしを判断する基準として、おおざっぱには、伝統性、一般性、合理性などが考えられるが、しかし、これらのうちの一つで判断が出来るとは限らない。少なくとも、これらの三つの条件がからみ合っていて、判断が容易でない場合もある。また、これらの三つの条件のほかにも条件がないわけではない。 (20% 『現代日本語』 岩淵悦太郎)

二、中翻日

1 醫學技術日新月異，治療的方法不斷進步，但對肯納症（註：俗稱自閉症）的有效治療，還是必須仰賴早期療育和生活訓練，也就是家人和周遭人的持續關心和愛護，以培養他們溝通技巧、自立自理的生活能力。

(20% 『肯納園 一個愛與夢想的故事』 瞿欣 )

2 日文系趁著「春之饗宴」，於3月15日上午11時40分邀請系友回家，參加在外語大樓一樓舉辦的「日本文化教室啓用典禮」，讓系友重溫舊地，看看母系的成長。日本文化教室主要以和室風格擺設，讓師生擁有更貼近日本文化的活動場地。

(20% 淡江時報 97・3・10)